

資料

自立活動 学習指導案

日 時 平成 27 年 7 月 9 日 (木)
5 校時 (13:35~14:20)
対 象 小学部 1 年 1 組
(女子 2 名 個別指導)
場 所 言語室
授業者 野田 恭孝

1 単元名「母音・半母音の発音」

本単元で優先される自立活動の内容と関連項目 (【】は長期的展望)

2 心理的 な安定	<p>(1) 情緒の安定に関すること 【音声言語も併用することで、日本語を習得し、日本語の読み書きへの苦手意識からくる自信喪失を軽減したい】</p> <p>(2) 状況の理解と変化への対応に関すること 【音声言語を併用することで、日本語の読み方や書き方を習得させたい】</p> <p>(3) 障害による学習上または生活上の困難と改善・克服に関すること 【視覚情報や触覚情報を活用することで、発音要領を身に付けさせたい】</p>
3 人間 関係の 形成	<p>(2) 他者の意図や感情の理解に関すること</p> <p>(4) 集団への参加の基礎に関すること 【日本で就職し、生活していくことを想定し、手話を知らない健聴者と日本語で確実な情報のやり取りができる力を身に付けさせたい】</p>
5 身体 の動き	<p>(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること 【発声・発語器官の微細な動きを覚え、正しい発音要領を身に付けさせたい。】</p>
6 コミュ ニケー ション	<p>(2) 言語の受容と表出に関すること 【日本語での意志のやり取りができるようになってほしい】</p> <p>(3) 言語の形成と活用に関すること 【日本語の意味理解を深め、音声言語や筆談による意志のやりとりができる力を身につけさせたい。】</p>

2 題材名 「『ヤ行・ワ音』の発音練習」

3 単元設定の理由

(1)単元観

自立活動における発音指導の目標は、かつて発音の明瞭性を高めることを目指すことであった。しかし、子供たちの聴力の違い、成育歴や環境の違い、子供たちの主たるコミュニケーションモードの違いによって、この目標は、現在にはそぐわないように考える。しかし、発音指導は、子供たちが発音要領を理解し、聴覚を活用しながら発音指導を行うことで、音韻意識を

高め、正しい日本語の獲得につながると考える。

発音に気をつけながら単語や短い文を話すことで、日本語のリズムを獲得し音韻意識の向上を目指し、その力を土台として、読み書きの力につなげていくことを目標としている。

(2)指導観

今回扱う「ワ音」「ヤ行音」は半母音という。

「ワ音」は、調音部位が二つ（唇と軟口蓋）ある。ウの口形からアの口形になること、口は閉じないで言うことを確認する。指導の中では、鏡を見ながら口形を確認、ウーアーをつなげて言い、だんだん短くして一拍に近づける指導を行う。ワ音は、明瞭に出せる児童が多いため、語句・文レベルでは、既習音も復習しながら扱っていく。

ヤ行は、硬口蓋に舌を近づけて声を出し、母音をつなげることで発音する。「イーア」を、一音で言う練習をしていく。最初は「イーアー」と伸ばして言い、だんだん短く「イをほとんど言わないように」意識していき、最終的に「ヤ」一音に近づける。「ユ」「ヨ」も同様の方法（イーウー、イーオー）で指導していく。

(3)児童観

本時に指導する対象児童2名は、ろう学校幼稚部を修了した児童である。幼稚部でも発音指導を受けてきているが、幼稚部段階では、保育の中での発音指導であり、小学部に入学したことで、自立活動の学習であるということ意識づけたいと考えている。そのために、毎回ワークシートでの振り返りを大切に考え、自分がどのような学習をしたかを理解できるようにしている。

4 単元の目標

- 声と息の違いを理解し、安定した声を出せるようにする。
- 発音の基本である母音の口形・舌位置を理解する。
- 子音部（母音部）から母音部への渡りを理解する。
- 手話と音声言語を併用することで正しい日本語を獲得する。

5 学習計画

	学習内容	目標	評価
第1次	声と息 大きな声や長い声、強い息や長い息を遊びを通して練習をする。	自分の声を調節して出す。 息だけを調節してはくことができる。	声と息の違いを理解できたか。 声は赤、息は青で表すことを理解できたか。
第2次	母音の発音① 母音の口形や舌の位置を視覚的なものを通して理解し、練習をする。	母音の口形や舌の位置を理解して発音をする。	母音の発音要領を理解できたか。
第3次	母音の発音② 舌を安定させて母音が発音できるように練習をする。 母音の入った単語や文章の練習をする。	母音の長音・連続音を口形、舌位置に注意して発音する。 単語や文章の中の母音に注意して発音する。	前回学習した母音の舌位置・口形に注意して発音できたか。

第4次・本時	半母音の発音(本時) 母音と母音をつなげることで、半母音の発音の仕方を理解する。 母音の入った単語や文章の練習をする。	母音と母音の渡りに注意して発音する。 単語や文章の中の半母音に注意して発音する。	半母音の発音要領を理解できたか。
--------	---	---	------------------

6 本時の学習

(1) 本時の目標

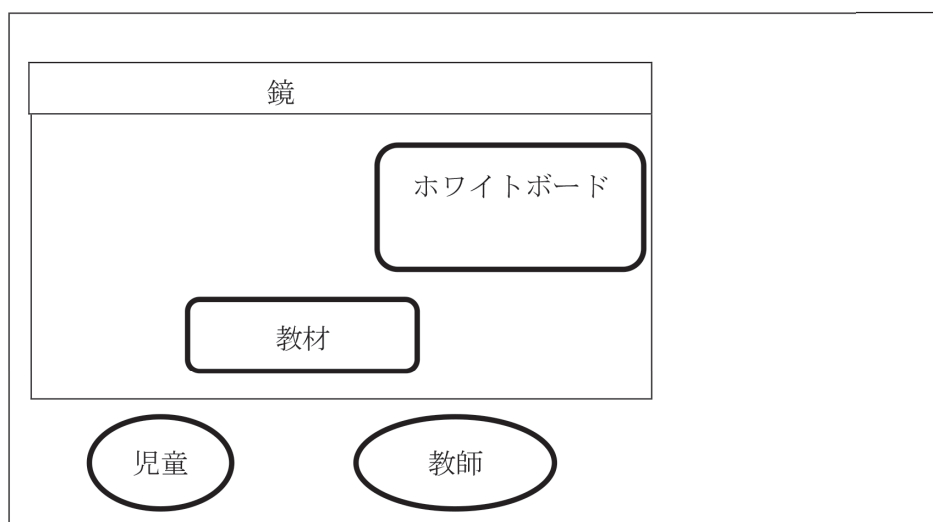
- 母音の口形に注意をして、二音の渡りができるようにする。
- ワ音、ヤ行音の発音要領を理解する。
- 単語や文章の中で、ワ音、ヤ行音に注意して発音する。
- そのほかの学習場面でも応用することができる。

(2) 本時の展開(前半 13:35~14:00、後半 14:00~14:20)

	学習活動及び内容	教師の支援 (◎評価の観点)	教材・その他
導 入	<p>1. はじめあいさつをする。</p> <p>2. 補聴器の確認をする。</p> <p>○補聴器の電池があるかどうかを調べる。 Tに名前を呼ばれたら返事をする。</p>	<p>バッテリーチェッカーを使用する 補聴器がきちんと使えているかを確認する。(B児については、前半で補聴器チェックをしているため実施しない)</p>	<p>バッテリーチェッカー</p>
展 開	<p>3. 既習の学習内容の復習をする。</p> <p>○母音の発音をし、前時まで学習した内容を思い出す。</p>	<p>・母音の口形・舌位置に注意をしながら発音をさせる。</p>	<p>文字カード (あおうえい)</p>
	<p>4. 『ワ音』の発音練習をする。</p> <p>○「ウー」「アー」の発音練習をし、連続する二音の長さを短くすることで「ワ音」へと誘導する。児童には、自分が何を発音したかを考えさせる。</p> <p>○「わーわーわー」「わわわわわ」「あわ」「いわ」「えわ」「うわ」「おわ」等、様々な形の「ワ音」の練習をする。</p>	<p>・文字カードを活用しながら児童に発音させ、二音の渡りがスムーズにいくように練習させる。 ◎ブラックボックスを使用し、「ウ」「ア」の二音から「ワ音」になることを理解させる。</p> <p>・「ワ音」が発音できなかったときは、前の練習に戻り「ワ音」の発音の仕方を思い出す、 ◎「ワ音」に注意して発音しているか。</p>	<p>文字カード (表面うあ、裏面わ) ブラックボックス</p>
	<p>5. 『ヤ行音』の発音練習をする。</p> <p>○「イ音」の発音練習をする。</p> <p>○「イー」「アー」(「ウー」「オー」)の発音練習をし、連続する二</p>	<p>・「イ音」の舌位置や口形に注意して発音をする。 ・難しい場合は、舌圧子等を用いて正しい口形を思い出す。 ◎自分なりの根拠を持っているか。 ・文字カードを活用しながら児童に発音させ、二音の渡りがスムーズにいくように練習させる。 ◎ブラックボックスを使用し、「ウ」「ア」</p>	<p>文字カード (い) 文字カード (表面いあ、裏面や) (表面いう、裏面ゆ)</p>

ま と め	<p>音の長さを短くすることで「ヤ行音」へと誘導する。児童には、自分が何を発音したかを考えさせる。</p> <p>○「やーやーやー」「ややややや」「あや」「いや」「えや」「うや」「おや」等、様々な形の「ヤ行音」の練習をする。</p>	<p>の二音から「ワ音」になることを理解させる。</p> <p>・「ヤ行音」が発音できなかったときは、前の練習に戻り「ヤ行音」の発音の仕方を思い出す、 ◎「ヤ行音」に注意して発音しているか。</p>	<p>(表面いお)裏面よ)</p> <p>ブラックボックス</p> <p>文房ド</p>
	<p>6. 『ワ音』『ヤ行音』の入った言葉や文章の練習をする。</p> <p>○「ワ音・ヤ行音」が入った言葉のプリントを記入し、発音練習をする。」</p> <p>○「ワ音・ヤ行音」が入った言葉の文章を読む。</p>	<p>・プリントの絵の正しい言葉を理解し、正しく発音できるようにする。 ◎「ワ音・ヤ行音」に注意して発音させる。 ・「ワ音・ヤ行音」に注意しながら文章を読む。 ◎短い文章を暗記して、話せるようにする。 ◎正しく手話記号を選択できているか。</p>	<p>絵の入ったプリント</p> <p>ワ音・ヤ行音が入った文書のプリント</p>
	<p>7. 振り返りのプリントをする。</p>	<p>・書くことに負担を感じないプリントを用意する。 ◎今日練習した内容を振り返る。。 ◎充実感のある表情をしているか。</p>	<p>ワークシート2枚 自らのファイル</p>
	<p>8. おわりのあいさつをする。</p>		

7 座席図



8 授業の評価

- ・楽しく発音練習に取り組めたか。
- ・視覚的・体感的な指導をする中で、発音要領を理解できたか。

長野県ろう学校
中学部第2学年Bグループ 学習指導案

日 時 平成27年9月3日(木) 3校時
場 所 中学部1年教室
授業者 吉原昌美

1. 単元名

一次関数（啓林館「未来へひろがる数学2」）

2. 単元の目標

変化や対応についての見方や考え方をいっそう深めるとともに、事象の中から一次関数を見だし、それを用いることができるようにする。そのために、以下のことを目標とする。

- ア. 一次関数の意味を理解し、身のまわりの事象の中から、一次関数とみられるものを見つけることができるようにする。
- イ. 一次関数の特徴を理解し、一次関数のグラフがかけるようにする。
- ウ. 直線が与えられているとき、その直線の式が求められるようにする。
- エ. 一次関数のグラフと二元一次方程式のグラフとの関係や連立方程式の解とグラフの関係を明らかにする。
- オ. 具体的な事象を一次関数とみなし、それを問題解決に利用できるようにする。

3. 単元展開

(1) 一次関数とグラフ

- ①一次関数・・・・・・・・・・3時間
- ②一次関数の値の変化・・・・・・・・2時間
- ③一次関数のグラフ・・・・・・・・4時間(本時1/4)
- ④一次関数の式を求めること・・・・4時間

(2) 一次関数と方程式

- ①方程式とグラフ・・・・・・・・2時間
- ②連立方程式とグラフ・・・・・・・・1時間

(3) 一次関数の利用

- ①一次関数の利用・・・・・・・・4時間

(4) 章のまとめ

- ①基本の問題・・・・・・・・1時間

4. 本時案

(1) 教材観

中学部での関数については、第1学年「変化と対応」で、関数の定義や2つの数量の変化や対応を表やグラフを使って調べることを中心に学習し、第2学年「一次関数」で、式、表、グラフを通して、一次関数の変化のようすを調べたり、調べた性質をもとにして、一次関数で表される事象について問題解決をはかったりし、第3学年の「関数 $y = ax^2$ 」で、式、表、グラフを通して、 $y = ax^2$ の変化のようすを調べたり、様々な関数で表される事象について問題解決をはかったりする。

3年間の学習で、伴って変化する2つの数量関係について、どのような変化をしているのかを読み取り、問題解決をはかれるようになることを目指したい。そのために、本時では「2つの表やグラフを比べる」という関数の見方を大切にしたいと考える。

(2) 数学に関する生徒の実態と聴力レベル

数学は、ほぼ学年対応で進んでいる。計算分野の「正負の計算」「文字式の計算」「方程式の解を求める」「連立方程式の解を求める」等は、同類項を指で隠したり、計算の途中で分からなくなったときなどに「次は何をするんだっけ？」などの声かけをして、以前にやったことを思い出せるようにしたり、「() の前にある－はどう計算するんだっけ？」など、着目するところを示すと、解くことができる。頭の中だけでの操作は苦手なので、暗算では、加法・減法を間違えるときがあるが、筆算を書いて計算すると正しくできる。正確に覚えていないため、九九を時々間違えることがある。

図形分野では、名称を覚えることは難しいが、展開図から立体を想像したり、線や面の関係を動作で説明したりすることは得意である。

数量関係では、言い方が分からずに言葉での説明ができないときがあるが、どのように変化をしているのかを読み取ることはできる。

(裸耳 平均) 右 99dB 左 94dB

(装用)

	500H z	1000H z	2000H z
右	5 5	3 5	5 5
左	5 5	4 5	5 5

(3) 指導観

図や表などを見て、どのようなものなのかをジェスチャー等で表現したり、数値を言ったりすることはできるが、名称や言い方を知らないため、説明することは難しい場合が多い。また、四則の計算が正確にできないときがあるため、考え方は分かっている、表現するときに間違えてしまうこともある。

できるだけ、図や表に常に戻れるようにし、「○つ増える」「○倍になる」等の言い方を繰り返し指

導する場面を作る。式を作る際には、すぐに立式できないときには、ブラックボックスを利用し、2つの数量の関係を考えてから、立式するようにする。

重要語句は、カードに記入して、それを見ながら表現できるようにする。読み方や意味、使い方などは繰り返し確認する。

生徒が考える場面、考えたことを表現する場面、くり返し解き定着させる場面、教師から教え込む場面をそれぞれ大切にしながら、意欲の持てる指導をしていきたい。

(4) 主眼

比例 $y = 2x$ と一次関数 $y = 2x + 3$ の関係を考える場面で、表を作り、グラフをかく事を通して、2つの関数の表とグラフを見比べて、どのような関係になっているかが分かる。

(5) 本時の位置

前時 変化の割合を求める。

次時 傾き、切片とグラフとの関係を見つけ、傾きと切片からグラフを書く。

(6) 展開

	学習活動	予想される生徒の反応	教師の指導・援助・評価	時間	備考
課題把握	1. 前時までの復習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ x が1増えると、y は○増える、という言い方と○倍になるという言い方が混同してしまう。 ・ 式はどう表せばよかったか忘れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の表、一次関数の表を提示し、それぞれどのように変化をしているのかを確認する。それぞれどのような式で表されるかを確認する。 ・ ○増えるは加法、○倍は乗法であることを確認する。 ・ ブラックボックスを使って、式の表し方を確認する。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の表 ・ 一次関数の表 ・ ブラックボックス書かれた紙
追究	2. $y=2x$ 、 $y=2x+3$ についての表を作る。 3. 表を見比べて言えることを考	<ul style="list-style-type: none"> ・ $y = 2x$ の $2x$ は $2 \times x$ だから、それで計算していけば良いな。 ・ $y = 2x + 3$ は難しいけれど、$2 \times x + 3$ に代入して計算していこう。 ・ $y = 2x$ に3をたすと $y = 2x + 3$ になる。 	「今日は、 $y=2x$ 、と $y=2x+3$ について比べます。」 <ul style="list-style-type: none"> ・ $y=2x$、と $y=2x+3$ について、x の値だけ入っている表を提示し、y の値はそれぞれいくつが入るかを問い、記入する。 ・ 2つの表の y の部分を上下に重ねて提示する。 「2つの表を比べて言えることは何だろうか？」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 2つの値を見比べて、差が3になっていることに気づく。 </div>	30	<ul style="list-style-type: none"> ・ $y=2x$ と $y=2x+3$ についての表 (掲示用と記入用)

<p>える。</p> <p>4. グラフをかき、比べて言えることを考える。</p> <p>ま と め</p> <p>5. 練習問題を解く。</p>	<p>・横軸が x で、縦軸は y でよかったかな。</p> <p>・表に書いてある値を座標軸にとっていけばいいな。</p> <p>・どちらも斜めにまっすぐになっているということを動作で表す。</p> <p>・2つのグラフは平行になっているということを動作で表す。</p> <p>・$y = 2x$ のグラフを上を3動かすと、$y = 2x + 3$ になる。</p> <p>・同じ x の値に対応する y の値は $y = 2x$ より $y = 2x + 3$ の方が5大きくなるように表を書けばいいな。</p> <p>・$y = 2x$ より5上にずらした形で平行になるようにグラフを書けばいいな。</p>	<p>・板書 (「同じ x の値に対応する y の値は、$y = 2$ より $y = 2x + 3$ の方が3大きくなっている」という言い方を確認する。)</p> <p>「2つの関数をグラフで表してみよう」</p> <p>・座標の確認をする。 (座標 (2, 5) の場所を問う)</p> <p>「2つのグラフを比べて言えることは何だろう？」</p> <p>・板書 ・動作で表したことは言葉に置きかえて、もう一度言うように促す。(言い方が分からないものについては、こちらが示す。)</p> <div data-bbox="762 1200 1141 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2つのグラフを見比べて、平行になっていることに気づく。</p> </div> <div data-bbox="762 1386 1152 1552" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>$y = 2x$ のグラフを上を3平行移動すると $y = 2x + 3$ のグラフになることに気づく。</p> </div> <p>・$y = 2x + 5$ について、表とグラフを書く。</p> <p>・「～より～の方が(いくつ)大きい」という言い方を確認する。</p>	<p>・グラフ黒板 ・グラフ用紙</p> <p>10</p>
---	---	--	---

- 1 日時 平成27年10月14日(火)第3校時(10:40~11:25)
- 2 場所 25番教室
- 3 対象 1人(男子1人)
- 4 単元名 「えをみて、はなそう」
- 5 単元目標
 - ・反対の意味を持つ動詞が分かり、発表したり、書いたりすることができる。
 - ・絵を見て、それぞれの人の立場に立って、正しい文を書くことができる。

6 単元構想

1学期に言葉を「なまえのことば」「うごきのことば」「ようすのことば」に分ける学習を行った。また、うごきのことば(動詞)の活用を、「ことばの変身」として学習を行い、文に合わせて活用できるようにってきている。

作文や日記を書くときに、文章がパターン化されていたり、様子や気持ちを詳しく表すことが苦手だったりする傾向にあると感じる。様子や気持ちを表す言葉を学習する前に、動詞を増やし、それぞれの言葉の違いや関係性を理解することで行動を細かく表現することができるようになることを考えた。そこで、「行く」「来る」など、反対の意味を持つ動詞を集めたり、「持つ」「つまむ」「つかむ」「すくう」など手を使った動詞の使い分けをしたりして、動詞の語彙を増やしていく学習を行う。その後、絵を見て文を作ったり、それぞれの立場に立って、「勝った」-「負けた」、「買う」-「売る」など反対の意味を持つ動詞を適切に使って文で書き表したりしていく。この単元は初めて行う学習であるため、今後、繰り返し学習しながら受動文等に内容を広げいきたいと考えている。

7 児童の実態

児童	平均聴力レベル (dBHL) 裸耳(装用時)	コミュニケーション手段及び態度	日本語の力の実態 「読む」「聞く」「話す」「書く」
O.R 男	右 85 (33) CI 左 92 (40) HA 読書力診断検査 (低学年)結果 読字 18 (5) 語い 8 (3) 文法 6 (3) 読解 20 (4) 読書学年 2年1学期 (H27.5.15実施)	<p>人との関わりを好み、自分から挨拶をしたり、話しかけたりすることができる。</p> <p>受容面では、静かな環境であれば、音声のみで理解することができるが、新しい言葉や慣れない言葉は、キューサインや文字が必要である。分からなかったときには、自分から聞き返すこともできる。相手を見て話を聞けるが、最後まで注目できなかつたり、きちんと返事をしなかつたりする。また、話の途中で自分が思ったことなどを話してしまつたり、自分の考えで行動してしまつたりするため、人の話を最後まできちんと受け止めることが課題である。</p> <p>表出面では、授業中はキューサインを使って話しているが、口元から離れたり、曖昧になつたりすることも多い。雑談などは口話のみのことが多く、話が長くなつたり、早口になつたりすると聞き取りにくいこともある。相手に聞き返されると発音や速度に気をつけて話そうとする。</p>	<p>音読では、時々、助詞の読み飛ばしや慣れない語句で音の脱落や置換があるが、繰り返し読むことで流暢に読むことができる。</p> <p>簡単な5Wの発問には正確に答えることができるが、自分の考えや思いが強いとき、質問とは違うことを答えることがある。JCOSS 日本語理解テストでは、受動文、格助詞、中央埋め込み型の主部修飾が課題である。</p> <p>話し方に幼さが残るが、新しく学習した言葉を積極的に使って話そうとする。3、4語文程度であつたら、助詞や文法的な誤りもなく、正しい文章で話したり、書いたりすることができる。助詞に誤りがあつたときも、読み返すように促すと間違いに気づき、正しい助詞に書き直すことがある。複文や使役文、受動文などの複雑な文になると、主語と述語の合っていないやつたり、助詞の間違いがあつたりし、読解共に課題である。</p> <p>絵日記や行事の作文では、経験したことを思い出して書くことができる。文が長くなると助詞が抜けたり、句読点がなくなつたりするなどの文法的な誤りはある。また、出来事だけで気持ちを表す表現がないこともある。</p>

8 本時について（本時4時間目／全5時間）

(1) 本時の目標

- ・絵を見て、様子を読み取ったり、ストーリーを考えたりして文で発表することができる。
- ・女の子の日記を読み取り、一緒に遊んだ男の子になったつもりで動きの言葉を正しく使って日記を書くことができる。

(2) 授業構想

授業の始めに、発音練習を行うことで口形を意識して話すようになるだけでなく文末まではっきり話したり、きちんと聞き取ろうという姿勢ができたりするため、短時間でも行うようにしている。

まずは、絵を見てどんな場面か想像しながら、文作りを行う。本児は、自分の体験をもとに想像することが好きであり、進んで考えることができるだろう。その後、絵の中の女の子が書いた日記を読み取る。その日記の内容を参考に同じ絵の中にいる男の子が主語になった日記作りをすることで、反対の意味を持つ動詞を考えたり、受身の文を作ったりする活動を行っていきたい。

(3) 展開

時間	○学習活動 主発問 発問 ☆引き出したい反応	・支援 評価
10:40	○あいさつ ○今日の学習の予定 ・発音 ・絵を見て話そう ・日記を書こう	
10:45	○発音 ・ガ行、ダ行の発音の復習 ・単語や文での練習	<ul style="list-style-type: none"> ・どこから息を出すのか、どこに舌をつけるのかなどを言葉で言わせることで、要領を意識して発音できるようにする。 ・文章の練習の時には、復唱課題も設け、最後まで正確に聞き取る練習にもする。
10:50	○絵を見て話そう 絵を見てわかったことや想像したことを発表しよう。 絵の中の子どもたちに名前をつけよう。 が が ○ ☆花子さんの誕生会をしている。 花子さんがろうそくを消している。 男の子がプレゼントをあげた。 花子さんがプレゼントをもらった。	評価 口形や舌の動きを意識して発音することができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・文の形を示し、文で説明するように促す。 ・主述の関係を明確にし、助詞に気をつけて文を作るようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・進んで絵を見て考えられるように、絵の中の登場人物と一緒に名前を付ける。
11:00	○日記を書こう 花子さんの日記には何が書かれていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・花子さんの日記を読み取ることで、日記を書くときにどんなことを書けばいいかわかるようにする。
11:10	男の子になって日記を書こう。 ☆今日、花子さんの誕生会で、花子さんの家に行きました。 花子さんにプレゼントをあげました。 トランプのゲームをして遊びました。勝ってうれしかったです。 また、遊びに行きたいです。 書けた日記を読んでみよう。 花子さんの日記と比べてみよう。 ☆「勝った」と「負けた」、「行く」と「来る」と反対の動きの言葉が使われています。 様子の言葉にも反対の言葉があります。 ○あいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・日記を書くときに動詞を比べながら書けるように、一文ごと色を変えて線を引いていく。 ・書く前に、考えたことを発表し、口頭作文を作ってから紙に書くことで、正しい文章で自信を持って書くことができるようにする。 評価 男の子の立場を想像して日記を書くことができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・色分けした文に注目するように促し、比較できるようにする。 ・動きの言葉以外でも気がついた様子が見られたときは、発表を促していく。 評価 学習した反対の意味を持つ動詞を見つけ、発表することができたか。

資料 2

「専門研究 B 「聴覚障害教育における教科指導等の充実に関する実践的研究
-教材活用の視点から-」に係る自立活動調査」調査票

本調査は、以下の構成としておりますので、ご確認の上、ご回答をよろしくお願いたします。

調査事項	回答者
I. 基本情報	全ての教職員
II. 調査事項 (1) ~ (4)	副校長、教頭、学部主事、教務主任のどなたか 1 名
II. 調査事項 (5)	学部主事、教務主任のどなたか 1 名
II. 調査事項 (6)	学部主事、教務主任、研究・研修担当教員のどなたか 1 名
II. 調査事項 (7) ~ (14)	管理職以外の全ての教職員

学校名	
-----	--

調査事項	回答者	集約確認
I. 基本情報	全ての教職員	
II. 調査事項 (1) ~ (4)	副校長、教頭、学部主事、教務主任 のどなたか 1 名	
II. 調査事項 (5)	学部主事、教務主任のどなたか 1 名	
II. 調査事項 (6)	学部主事、教務主任、研究・研修担 当教員のどなたか 1 名	
II. 調査事項 (7) ~ (14)	管理職以外の全ての教職員	

I 基本情報（所属学部、経験年数等）

この調査事項につきましては、**全ての教職員の皆様**にご回答をお願いいたします。
該当する項目に○をご記入ください。

<p>(1) 教職経験年数</p>	<p><input type="checkbox"/> 0～3年未満 <input type="checkbox"/> 3～6年未満 <input type="checkbox"/> 6～9年未満 <input type="checkbox"/> 9～12年未満 <input type="checkbox"/> 12～15年未満 <input type="checkbox"/> 15～18年未満 <input type="checkbox"/> 18～21年未満 <input type="checkbox"/> 21年以上</p>
<p>(2) 特別支援学校(聴覚障害) 経験年数 (校目)</p>	<p><input type="checkbox"/> 0～3年未満 <input type="checkbox"/> 3～6年未満 <input type="checkbox"/> 6～9年未満 <input type="checkbox"/> 9～12年未満 <input type="checkbox"/> 12～15年未満 <input type="checkbox"/> 15～18年未満 <input type="checkbox"/> 18～21年未満 <input type="checkbox"/> 21年以上</p>
<p>(3) 所属学部 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 幼稚部・乳幼児教育相談 <input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部・専攻科 <input type="checkbox"/> 通級指導教室 <input type="checkbox"/> その他 ()</p>	<p>経験年数 <input type="checkbox"/> 0～3年未満 <input type="checkbox"/> 3～6年未満 <input type="checkbox"/> 6～9年未満 <input type="checkbox"/> 9～12年未満 <input type="checkbox"/> 12～15年未満 <input type="checkbox"/> 15～18年未満 <input type="checkbox"/> 18～21年未満 <input type="checkbox"/> 21年以上</p>
<p>(4) 担当</p>	<p><input type="checkbox"/> 学級担任 <input type="checkbox"/> 副担任 <input type="checkbox"/> 学年主任 <input type="checkbox"/> 学年所属 <input type="checkbox"/> 学部主任・主事 <input type="checkbox"/> 学部所属 <input type="checkbox"/> 特別支援教育コーディネーター、 <input type="checkbox"/> 個別指導 <input type="checkbox"/> 聴能担当 <input type="checkbox"/> 自立活動教員 <input type="checkbox"/> その他 ()</p>

II. 調査事項

(1)～(4)までの調査事項につきましては、**副校長、教頭、学部主事、教務主任**のどなたか1名にご回答をお願いいたします。

回答者	() 副校長、() 教頭、() 学部主事、() 教務主任
-----	----------------------------------

(1) 自立活動の教育課程上の位置づけ

学部	幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科
週__時間	時間	時間	時間	時間	時間
1単位時間	分	分	分	分	分

(2) 各学部での自立活動の目標（重点事項）

幼稚部	小学部	中学部	高等部・専攻科

(3) 年間指導計画の記入者、主な記載内容、評価方法

	幼稚部	小学部	中学部	高等部・専攻科
記入者				
主な記載内容				
評価方法				

(4) 自立活動に関する「個別の指導計画」について、活用例をご記入ください。

	幼稚部	小学部	中学部	高等部・専攻科
活用例				

※貴校の「個別の指導計画」の様式がございましたら、1式、ご送付ください。

II. 調査事項

(5) の調査事項につきましては、**学部主事、教務主任**のどなたか 1 名にご回答をお願いいたします。

回答者	() 学部主事、() 教務主任
-----	-------------------

(5) 学部における自立活動関連の教材の保有、学部間共用の状況について、該当する項目に○をご記入ください。

	保有・共有されている	保有されているが、学部間共有はされていない	共有できる校内体制づくりが課題となっている
乳幼児教育相談	()	()	()
幼稚部	()	()	()
小学部	()	()	()
中学部	()	()	()
高等部・専攻科	()	()	()
通級指導教室	()	()	()

(6) の調査事項につきましては、**学部主事、教務主任、研究・研修担当教員**のどなたか 1 名にご回答をお願いいたします。研究・研修担当教員

回答者	() 学部主事、() 教務主任、() 研究・研修担当教員
-----	---------------------------------

(6) 自立活動に関する研修について、具体的な研修内容をご記述ください。

研修内容	研修内容例
授業研究会	
研修会	
その他	

II. 調査事項

(7) ～ (14) の調査事項につきましては、**管理職以外の全ての教職員の皆様**にご回答をお願いいたします。

(7) 自立活動でご使用になっているに教材について、該当する項目に○をご記入し、具体的な指導例をご記述ください。

	教材	具体的指導場面や活用例
聴覚教材	<input type="checkbox"/> 集団補聴器 (ループ)	
	<input type="checkbox"/> 集団補聴器 (赤外線)	
	<input type="checkbox"/> 個人用 FM 補聴システム	
	<input type="checkbox"/> CD プレーヤー等オーディオ機器	
	<input type="checkbox"/> 音素材用 PC ソフト	
	<input type="checkbox"/> その他	
視覚教材	<input type="checkbox"/> 絵本・紙芝居	
	<input type="checkbox"/> テレビ、手話・字幕付 DVD	
	<input type="checkbox"/> 掛け図 (手話表、調音部位図、母音図等)	
	<input type="checkbox"/> その他	
その他	<input type="checkbox"/> 手話辞典、辞典	
	<input type="checkbox"/> 電子黒板	
	<input type="checkbox"/> パソコン、プロジェクター	
	<input type="checkbox"/> Web 情報	
自作教材		

(8) 自立活動の指導に際して、軽度・中等度難聴児に配慮した具体的な指導例があればご記述ください。

--

(9) 自立活動の指導に際して、人工内耳装用児に配慮した具体的な指導例があれば記述ください。

--

(10) 自立活動の指導に際して、重複障害児に配慮した具体的な指導例があれば記述ください。

--

(11) 自立活動に関する「個別の指導計画」立案や指導に際して、特に留意している点をご記述ください（聴力レベル、コミュニケーション手段等）。

--

(12) 自立活動の指導について、保護者に対して配慮していることがあれば、ご記述ください。

--

(13) 自立活動と領域・教科との関連について、お考えになっていることがございましたら、ご記述ください。

--

(14) 自立活動に関する教材に関してお考えになっていること（今後、必要と思われる教材等）がございましたら、ご記述ください。

--

以上で終わります。ご協力いただき、ありがとうございました。